

復興ありがとうホストタウン（第16次）自治体について

令和2年9月11日

自治体 (相手国等)	受けた支援の概要	取り組もうとする事業の概要
<p>福島県白河市 (カタール)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の被災地復興支援プロジェクトの「カタールフレンド基金」より資金援助を受け、白河市総合運動公園国体記念体育館の外壁補修工事や陸上競技場のトラック改修、付帯設備の整備を行ったほか、市民の健康の維持・向上を目的とした室内遊び場や室内フットサルコートを備えるアナビススポーツプラザの新設を行った。現在は、年間40万人以上が利用し、県南地域のスポーツ振興と市民の健康の保持増進に貢献している。 ・また、同基金のソフトプロジェクトとして、ウォーキング教室や陸上教室、サッカー交流会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京大会時、カタールオリンピック代表選手団（陸上競技・ウエイトリフティング）の事前合宿を受け入れる。 ・事前合宿中には、市内の子どもたちがカタール選手の練習風景を見学し、カタール選手やオリンピック大会をより身近に感じ、東京オリンピックやスポーツの機運醸成を図るとともに、カタール選手によるパフォーマンス披露や市内の子どもたちへの直接指導を通して交流を深め、競技力の向上や感性を育む。 ・また、市の東日本大震災から復興した姿やカタールの支援により整備した施設の見学、白河だるまの絵付けや呈茶など日本文化の体験といった市内観光ツアーを行う。 ・大会以降は、毎年開催している「しらかわ駅伝」や「しらかわ郷里マラソン」等のスポーツイベントや地域のお祭りにカタールの選手を招待する。 ・カタールの子どもたちと白河市の中学生が両国を訪問し、それぞれの生活の様子や文化などについて体験し、相互に交流を深める。 <p>こうした活動を通して、ムスリム旅行者の受入環境を整備し、観光産業の活性化を図る。また、交流を継続することにより、豊かな国際感覚を身に付けた人材育成や豊かで文化的な生活の実現と地域の活性化に寄与する。</p>

<p>福島県檜葉町 (ギリシャ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災後、ギリシャ共和国からは多額の義捐金が日本赤十字社に贈られた。 ・寄せられた義捐金の一部は、避難した町民の生活家電や支援物資に充てられ、こうした支援のおかげで長引く避難生活を乗り切ることができ、帰還した町民の生活再建を図ることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・延期となったオリンピック聖火リレーの日本国内スタート地であったJヴィレッジが所在する檜葉町は、聖火を歓迎しており、オリンピック聖火の採火の地であるギリシャ共和国のオリンピア市と交流を進める。 ・中学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の授業の中で、ギリシャ共和国を学習する場を設けるとともに、古代オリンピックの競技内容を再現する等の学習を行う。 ・地域のイベントの場を活用し、在日のギリシャ共和国の方と地域住民の交流を図る。 ・東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、選手団を応援する取組を行い、大会会場や檜葉町等で、選手団や関係者と檜葉町民の交流を行う。 ・大会以降は、小中学校代表や町の代表がオリンピア市を訪問する。 ・檜葉町ではこれまで関係団体とともに、宇宙ステーションに桜の種を持って行き、帰還した種を植える取組を実施している。今回の交流をきっかけに、ギリシャの名産品であるオリーブの種を宇宙ステーションに打ち上げる計画を立てており、その後帰還した種を互いに栽培する。 ・福島第一原子力発電所の事故を撮影した画像や動画をギリシャの選手に体感していただき、事故から得た教訓をしっかりと国際社会へ発信する。 <p>上記取組により、4年に一度のオリンピック・パラリンピックの度に、ギリシャ共和国との縁を地域住民の記憶に刻む仕組みを設けるとともに、ギリシャ共和国との互いの宇宙オリーブ栽培の交流を進めていく。</p>
--------------------------	--	---

この登録により、登録数：430件、自治体数：501、相手国・地域：174となる。

(復興ありがとうホストタウンの登録数は、31件(32自治体)となる。)